

夢トーク  
第1回

## OKI が実現するイノベーション

OKI はお客様の抱えるさまざまな課題の解決に向け、共創パートナーと「イノベーション」を実現していくことで、新たな事業機会を創出し、持続的な成長を遂げていきたいと考えています。OKI グループにおける売上の4割を占める中核事業の情報通信ビジネスについて、常務執行役員・情報通信事業本部長の坪井正志が語ります。



常務執行役員 情報通信事業本部長  
坪井正志

### IoT分野におけるOKIの強み、提供価値は？

坪井 当社がかねてから、あらゆるモノをネットにつなぎデータ処理・分析を行う仕組みを、交通、防衛、防災といった公共分野向けの特化型システムなどで提供してきました。それらは今の言葉に当てはめれば“IoT ソリューション”に他なりません。つまり、当社にとってIoTは決して新しいものではなく、長年にわたって慣れ親しんできたビジネスといえます。

IoT ビジネスを展開するうえで優位性を発揮できる技術・ノウハウとしては、「デバイス・センシング」「ネットワーク」「データ処理・運用」の3つがあげられます。特に、光ファイバーや音響を用いる独自のセンシング技術、サブギガ帯（920MHz帯）マルチホップ無線やITSなどで使われるDSRC無線といった多種多様なネットワーク技術は、非常に大きな強みとなっています。光ファイバーによるセンシングは、長距離なインフラにおいて独自のアルゴリズムにより他社の1,000倍の速さで異常を検知できます。また、通信汎用部品の応用により計測機器メーカーのシステムに比べて1/3程度のコストで提供可能です。そのため、橋梁やトンネル、ダムなど大規模なインフラ設備のリアルタイムな監視に適しています。防衛分野で実績のある音響センシングは、港湾や河川、湖沼などの水中監視・深淺測量での活用も進んでいます。また、サブギガ帯マルチホップ無線は防災などの公共インフラや工場、農業などで多くの採用実績を獲得しています。

### まず、情報通信事業本部の特長は？

坪井 情報系、通信系、公共系の事業部門を統合し、2016年4月に情報通信事業本部が発足しました。縦割りだった組織が1つにまとまったことで、いま話題を集めているデジタル変革の流れに迅速・柔軟に対応できる体制を確立できました。各事業を横断的に見ると「いたるところにポテンシャルがある」ことが改めて分かりましたし、新たな本部体制で事業を越えた技術の融合が進み、それによってポテンシャルも向上しているという実感があります。

### 情報通信事業の目指す方向は？

坪井 大きなテーマとして“次世代社会インフラ × IoT”を掲げています。実績を重ねてきた社会インフラ市場でのビジネスをベースにしつつ、デジタル変革に欠かせない要素といえるIoTで新たな事業の創出にも注力しています。



## IoT ビジネスの具体的な戦略は？

坪井 「交通」「建設/インフラ・防災」「医療」「金融・流通」「製造」の5つの分野を重点対象として、「労働力不足」「自然災害/環境問題」「老朽化問題」「少子高齢化」「働き方改革」といった社会課題の解決に結びつくさまざまなソリューションの提供を推進していく考えです。ソリューションの開発については、当社自身ですべてを揃えるという形だけでなく、外部企業との連携、とりわけパートナーシップを組んでプロジェクトを推進する『共創』に積極的に取り組んでいます。

### 『共創』の成果は？

坪井 すでに50社近い多様な業種の外部企業との実証実験に着手し、共創の成果から商用化された製品・サービスも生まれています。

今はお客様自身がデジタル変革、従来の延長ではない非連続な改革を望まれており、ベンダーに求める条件も、以前のように業務ノウハウを重視するのではなく、一緒に課題解決を実現してくれる信頼できるパートナーかどうかに関心を向ける傾向が強くなっています。さらに、お客様から「一緒にやろう」と声をかけていただいて『共創』がスタートするケースも少なくありません。



### 最後に、今後のビジネスへの意気込みを

坪井 『共創』で多くの実績を獲得できているのは、当社がお客様や共創パートナー企業からイノベーションパートナーとして認められている確かな証しだと思っています。長年の経験で培った技術・ノウハウをもっともっと活かすとともに、外部発信力をさらに強化し、“IoTのOKI”という認知度を高め、デジタル変革を求めるお客様への貢献、次世代社会インフラの構築支援でより一層の実績を積み重ねていきます。

(2018年4月2日公開)

### 【参考資料】

- 1) OKI 中期経営計画 2019 情報通信事業、2017年5月26日  
<http://www.oki.com/jp/ir/accounts/2018b/ict.pdf>
- 2) 「製造ラインの温度や橋梁の歪み等、多地点で異常を瞬時に検出するIoTの『光ファイバーセンサー』評価キットを提供開始」プレスリリース、2017年10月18日、沖電気工業
- 3) 「港湾、湖沼、河川で深浅測量可能な可搬ポート型マルチビーム測深機「CARPHIN V」を販売開始」プレスリリース、2018年1月30日、OKI シーテック、沖電気工業

# OKI

沖電気工業株式会社

お問い合わせ先

イノベーション推進部

〒105-8460 東京都港区虎ノ門 1-7-12 (虎ノ門ファーストガーデン)

TEL 03-3501-3821

[http://www.oki.com/jp/yume\\_pro/](http://www.oki.com/jp/yume_pro/)

